

2021
本日のテーマ「昨年読んで面白かった本」

実施日：2022年1月23日

1 「未来のサイズ」

俵万智／著 2020年 角川文化振興財団 【911.1夕】

2020年突然、日常が失われ、コロナ禍のおかげで、これまでの当たり前が、次々と当たり前ではなくなり、今までにはない非日常の暮らしになりました。でも、それが続けば... また日常になっていく。そこから歌が生まれたようです。“わねこ～” “あはあは”と共感する歌がたくさんあります。

2 「草木鳥鳥文様」

梨木香歩／文 ユカワアツコ／絵 長島有里枝／写真
 2021年 福音館書店 【488.0】

古い算笥の引き出しに鳥の絵を描いたユカワアツコさん、まわりの風景にとけた写真の長島有里枝さん、梨木香歩さんのエッセイ...と3つの味が楽しめる本。野鳥好きの人にもおすすめです。



3 「雪と珊瑚と」

梨木香歩／著 2012年 角川書店 【Nナ】

物語の中にある「その場所」の空気感、主人公玉珊瑚やくららさんのひととせりか、どっしりとした安心感と癒しを感じさせてくれます。

4 「おじいちゃんのコート」

ジム・エイルズワース／文 バーバラ・マクリントック／絵
 福本友美子／訳 2015年 ほるぷ出版 【Eオ//シキヨウ】

洋服の仕立屋だったおじいちゃんは、自分の結婚式のためにコートを仕立てました。ほろほろになったら、今度は仕立て直しておまじを作ります。思い出のある洋服が、こんなに素敵なお話になるよって... と心が温かくなります。



5 「おじいさんならできる」

フィービ・ギルマン／作・絵 芦田ルリ／訳
 1998年 福音館書店 【Eオ】

男の子が赤ちゃんだった時、おじいさんがおまじなフランクをぬってくれました。お話の展開は「おじいちゃんのコート」ととても似ています。2冊を比べて読むと、より味あふ深くておすすめです。

6 「王都炎上」ほか(アルスラーン戦記1～16) 光文社文庫版

田中芳樹／著 2012～2020年 光文社 【SN夕】
 いくつか読んでみようと思っていたシリーズです。図書館で新しい文庫本に買なおされたのを機に読んでみました。1987年～2017年と30年かけて完結。16巻を一気読みできるほど、面白くはあったのですが、結末に愕然。田中芳樹らしいといえば、そうなんですか... うーむ...



7 「考えごとしたい旅 フィンランドとシナモンロール」

益田ミリ／著 2020年 幻冬舎 【293.8】

タイトル通り、フィンランドでシナモンロールを「食べ歩き」しながら考えごとをまとめたエッセイです。ふたたび考えごと日常事。その心外青にしみじみと共感した一冊です。

8 「映える幕末史 新感覚な歴史の教科書」(入荷予定)

スエヒロ／著 2021年 大和書房 【210.58】

西郷隆盛ガリモトで薩長同盟!? 徳川慶喜がYouTubeで大政奉還を生配信!? など幕末好きにはたまらない。歴史が苦手な人でも読みやすい一冊です。

投稿BOXに入っていたおすすめ本です。

9 「グレッグのダメ日記」

ジェフ・キニー／作 中井はるの／訳 2008年～ポプラ社 【93キニ】 こどもコーナー【K18】の棚にあります。

小学生に人気のシリーズです。ダメ少年グレッグの日記なので、なぜ日記を書くことにしたかという、将来有名になったときにインタビューに答えるのが、おもしろいので、この日記を讀ませるため... だそうです。本文は日記帳風に罫線が引いてあって、イラストが面白い。楽しく読めます。

